

長沢 鼎英文日記（二）

長 沢 鼎 著
門 田 明 訳

長沢鼎英文日記（一） 鹿児島県立短期大学地域研究所年報 第23号（1994）

目 次	ページ
まえがき	1
1871年 1 月	2
1871年 2 月	12

1871年 3 月

3 月 1 日（水）

ファーザーは、前より具合がいいようだ。またダビー小母さんもほとんど一日中起きていた。南農場で競売があり、沢山の牛が1,000ドルで売られた。野村がダビー小母さんのところに手紙を持ってきた。ファーザーは私たちを自室に呼び相談し、ヴァインクリフを日本人学校として使うことについてどう思うか野村に尋ねた。ファーザーは「ヨーロッパとアメリカでもっとも知的な、またもっとも賢明な人々は、丁度日本において、そこにいるもっとも知的な人々が仏教を嫌悪しているように、いわゆるキリスト教というものを嫌悪している」と言った。ファーザーは「ヨーロッパやアメリカにおけると同様、日本においても精神的に大きな変化が進んでいる」と言った。人々の考えは、あらゆる所で急速に変化しつつある。日本においてもこの真理を受け入れる用意のできている人々がいるが、まだ彼らの知的成長が完成されてはいない。これらの人々は単純で、勤勉で、質朴な人々だ。神は質朴な人々を自分の道具として、裕福で傲慢心に満ちた人々より、容易にお用いになることができる。ファーザーは「もし、野村がもっと英語を理解するようになれば、このような事柄をわかりやすい言葉で書いて、日本に送ることができるだろう。また彼と私と二人でそれを翻訳できるだろう」などと言っている。私は夕食前ミルクを取りにロッジに行った。今朝野村が持って行った森の手紙を持ち帰るため、夕食後ヴァインクリフに行った。私は手紙を投函しに行った。その一通はウッドバイン小父さん宛、それから湯地と Niles（仁礼？）あてのものだった。それから私は、酪農場に行き、本と瀬戸物と瓶を荷造りした。私はまた、グレンサイド用に持って行くため、ジャガイモをいくらか選んだ。苦しい、気のめいる日であった。私はとても弱くて、私を守って戦うため、ゴールデン・

ローズ小母さんが生命をすり減らさないといけなくらいなら、生きているより死ぬ方がましだと思った。しかし、私は、もし森がここに来れば、このことについてすべて彼と話しあいたいものだと、一日中、心から願った。

3月2日（木）

今朝私はゴールデン・ローズ小母さんと話した。鬱の「働き」(sphere)が霧散しはじめ、長い間の閉塞感を脱して、今までより幸福で満足な感じがするように思えた。ファーザーは夕食前5時間ばかり、何か口述筆記をしてもらっていた。4月1日までに、ここにエマソンさんたちが来るので、私は今朝コテージ(Cottage)に行って、部屋の大きさはかった。ダビー小母さんと私は、ヴァインクリフの礼拝堂に出掛け、次の日曜礼拝のために、椅子を並べたり、その他何かすることがあるか確かめておいたりした。私たちが帰宅する途中でダビー小母さんは私に次のような話をした。「ファーザーの頭の中は、まるで新しい真理の卵が一杯つまっているようなもので、その殻が次々に割れて、最後に立派な言葉が生まれるのだ。だから、お前がお前の頭脳を静寂状態に保ち、さそりや蛇の思想で満たさないようにし、そういうことがらから完全に自由にしておくことが本当に大切なのだ。そんな風にすれば、主がそれを私たちにふさわしい、また神の目に善なるもので満たして下さる。それが何かとか、何故など尋ねる必要もない」こんな話だった。また彼女は私に次のように言った。彼女は私にファーザーの口述を筆記してもらいたいと思っている。それは彼女が留守の時とか、ひどく体が弱っている時、そんな時彼女を手助けするため、私に書けるようになって欲しいのだ。そんな話をした。私たちの葦毛のチームや第一シリーズのチームは、今日は主として車から氷を降ろす仕事に従事した。ファーザーはフォースターさんに会いたいと思っており、それで私はヴァインクリフから帰宅後レストランに行った。私はヴァインクリフに行き、それからミルクをもらうため、またシービーのことでアイダ小母さん宛の伝言を届けるなどの用事のため、ロッジに行った。

3月3日（金）

ダビー小母さんは昨日ほど気分が良くない。昨日、長時間口述筆記をしたのが体に良くなかったようだと、彼女は考えている。ゴールデン・ローズ小母さんはいつもより具合が良いようだ。ファーザーも同じで昨日より気分が良い。昨夜私は、書き物をしていて、12時半を過ぎてやっと床についた。ダビー小母さんは森宛の手紙を私に書き取らせた。また（不明）保険会社宛の手紙も一つ書き取らせた。その手紙を私は4時の汽車に間に合うように投函しにいった。レストランに行ってみると、今度の日曜日ファーザーが公共礼拝の司式をする予告がでていた。私はハムを燻す仕事と庭の（不明）に樽をのせる仕事を始めた。ダビー小母さんの話では、昨日ウッドバイン小父さんから手紙を受け取ったが、その中で彼が野田(Noda)から近況を受け取ったと言っているそうだと。ウッドバイン小父さ

んは、2、3日中に出発するつもりだという。私は今朝レストランに行って、雇うことになった女の子をつれて来た。またベッシー小母さんに私の勘定を払いに行った。戻ってからゴールデン・ローズ小母さんが私をファーザーの部屋に連れて行き、私は『天使の知恵』の口述筆記をした。

3月4日(土)

昨日と較べると、天候がガラッと変わって、ずっと暖かく感じる。ファーザーはとても元気そうに見えるが、ダビー小母さんはとても弱っている。ゴールデン・ローズ小母さんは見たところ元気なようだが、彼女自身はまた風邪をひいたと思い込んでいる。私は、今朝バードネストまで、材木を運ぶ荷車を取りにいった。それからフォスターさんに手助けを頼むためにレストランまで行った。リーカとベッシー小母さんはダンカークに行っていていなかった。そこで私はザッキーに私の手助けをしてもらった。私は一人の男の子がグレンサイドの近くでショベルで何かしているのを見た。私はそれを止めさせた。その後私は、ジョージ(George)が車輪をカジ屋に修繕させたかどうか、彼の口から確かめるため、酪農場に行かねばならなかった。戻ってから私はもう一度レストランに行き、ウッドバイン小父さんに電報を打った。ファーザーが彼に戻ってもらいたいのかどうか知りたくて、目下ロンドンで返事を待っている、という手紙を丁度受け取ったからだ。夕食後、私はダンディに牽かせて礼拝堂までベンチや椅子などを運んだ。また、ザッキー、リーカ、野村と私で礼拝堂を思い付く限り立派に準備した。戻り道私はバードネストに行った。そして奇麗に洗濯した自分の服を家まで持って帰った。

3月5日(日)

ファーザーがヨハネ福音書の第1章第10節について説教した。この説教は外部の人にぴったりのものだった。9人か10人の見知らぬ人がいた。午後私はヴァインクリフに行きドラをロッジと酪農場に連れて行った。そしてそれからジャガイモと薪をグレンサイドに持っていった。ビオラ小母さんが私達の大切なダビー小母さん(our precious Aunt Doby)を傷つけ、ファーザーは彼女の事が原因でとても苦しんでいた。なぜなら、彼はビオラ小母さんが彼とダビー小母さんを目茶苦茶にしてしまうように感じたからだ。それが原因でファーザーは、私が今夜ヴァインクリフに行くのを許可しなかった。今日午後、ドラはとても可愛くまた幸福そうで、ここに来れたのを喜んでいて。私はいろんな道具と薪をとり酪農場に行った。

3月6日(月)

私はまだ暗いうちに起き出して排水工事のための道具をとりバードネストに行った。2時か2時半頃であつたに違いない。ダビー小母さんはとても気分がすぐれなかった。小

母さんの話では、今日のトリビューン紙によると、沢井が随伴の人達とセントニコラス・ホテル（St. Nicholas Hotel）に泊まったという。私は森宛にとて短い手紙を書いた。ゴールデン・ローズ小母さんはとても調子がよい……。私はますます心の底から、現在の私の状況は向上の見込みはなく、友人や家族の者皆にさからっているような気がする。私は今夜野村の髪を切ってやった。そのあと彼は私に、日本の学生生活と学生の不道德な行いについて話してくれた。それはまことに恐ろしい話であった。私はこの地に居て、想像力でそれを感じることができた。

3月7日（火）

3時半起床。昨夜ファーザーは説教を一つ口述筆記させたということだ。ファーザーは主としてグラント、エマソン、クラークが原因でとても苦しんでいた。私は今日フィッチさん（The Fitches）のお宅に行き、仕事をせるためにチャーリー・フィッチを連れて来た。一方私はワイン貯蔵所に行き、ワインの籠入りの細口大瓶をとり、それをビオラのために、夕食後ヴァインクリフに届けた。ファーザーは、彼女はこれまで贅沢に暮らすのに慣れてしまっているから、今飲んだくれの生活から足を洗うために、良く生きなければならないと言っている。ダビー小母さんは新聞をみて、沢井がボストン（Boston）に居るのがわかったと私に教えてくれた。ダビー小母さんは昨日にくらべて殆ど好転していないようだ。

3月8日（水）

今朝ダビー小母さんは私に昨夜あんまり書き物をしたものだから、とても調子が悪いと言った。また、ゴールデン・ローズ小母さんの口述筆記をお手本にして、書く練習をすればいい、と言った。今日の午後は鶏小屋の掃除等々で時間を使う。とても愉快にやった。私はレストランに行き、小麦粉をもらい、卵2ダース半もいっしょに手に入れた。レストランでとてもいやなことがあり、夜はほとんど半分くらい、涙にくれ、声をあげ泣いていた。

3月9日（木）

私は頭痛をおして仕事をし、一日中みじめな気分だった。今日午後、二度レストランに行った。ファーザーは午後ずっと口述筆記をさせていた。今朝私はゴールデン・ローズ小母さんが（不明）（不明）非常に素晴らしいものを書き取った事を聞き知った。ファーザーはその中で一部日本について触れている。午後私は「あずまや」に行った。ダビー小母さんもまたやって来て、私の部屋を整理して、カーベットを敷いてくれたりした。野村はローザから手紙を受け取り、それには彼女が森とセントニコラス・ホテルで会ったと書かれていた。（Rosa はMary Emerson のことで、後に“Among the Chosen”という書物をあ

らわした人物である：英語版編者注）ファーザーはお茶の後、すぐ口述筆記をはじめた。フォスターさんがやって来て、Niles（仁札？）がボストンからホテルに到着し、ファーザーに会いたがっていると言った。ところがファーザーはフォスターさんに、自分は「彼と個人的に話してやってくれ」などという指図は受けない、もし彼がそうしたいなら、日曜日にファーザーの説教を聴きに来ればいいと言った。

3月10日（金）

私は午後何度かレストランに行った。またヴァインクリフ、ロッジ、バードネストに行き、我が家までミルクと洗濯済みの衣類等を持ってきた。ゴールデン・ローズ小母さんは、私が彼女をととても傷つける「働き」（spheres）をもって来たと言っている。私にとって苦勞の多い一日だった。夜私はみじめな気持ちで胸が一杯になり、気持ちをしっかり保つことができず、ほとんど夜通し泣き通した。朝ファーザーは苦しがっていた。が、午前中ずっと外出していた。ダビー小母さんはファーザーの部屋を掃除し、私はちょっと彼女の手伝いをした。彼女は、沢井は今こちらに向かっていると思うと言った。ローザ（Rosa）が手紙をよこして、沢井が来るなら木曜日だ、と希望的観測を言ったからだ。私は戸外の仕事を少ししかしなかった。ゴールデン・ローズ小母さんはとても疲れていた。彼女はこんなひどい日がこれまであったろうか、いつあったか覚えていないといった。

3月11日（土）

私は朝早く起きて、朝食前ずっとファーザーの部屋の掃除をし、チリひとつないようにした。今日はゴールデン・ローズ小母さんの部屋の模様替えもしたし、丸一日というわけではないが、有意義な日であった。私は【ジョン・B（John B）】が来ているので、レストランに手紙を持って行った。私はまた8時の汽車で森宛の手紙を出した。昨日からミュージデル（Musidell）の状況が悪化している。つまり彼女がファーザーなどに馬鹿げた手紙を書いたためだが、今日はもう悪くなる一方だ。この結末がどうなるか私たちには分からない。ダビー小母さんに森から電話があった。今日、彼は私たちに会えると思う、という内容だった。そこで私は彼を迎えるためレストランに行き、彼と【ナワ（Nawa）と新井（Arai）】をグレンサイドまで連れて行き、それから、ヴァインクリフに連れていった。沢井たちを休ませてやりたかったので、私は早々にヴァインクリフを出た。礼拝堂の方は何一つできなかった。余分な時間がなかったからだ。私達は相談して、そちらのほうはリーカとザッキーが明日の朝片付けるということに決めた。

3月12日（日）

今朝は雨だった。しかしファーザーは説教をしなければならないと言う。また、何かあそこで変化が起こりそうな気がすると言う。ファーザーは大変心を打つ説教をした。それ

を聴いて我々は、完全に打ちのめされた。Ch（空白）。私たちは「かくて栄光の主は聖徒の傍らに來たりたもう」（“Thence Glorious Jesus come by Saints, Farewell, Farewell”）を歌った。沢井はこの説教に大変感動したように見えた。彼はこんなに感激したのは初めてだという。私はヴァインクリフで夕食をとり、午後皆でバードネストに行き、それから沢井と私だけ他の人達と分かれてグレンサイドに行った。私たちがそこについた時、ファーザーは睡眠休息中だった。しかし、お茶のあと、沢井と私はファーザーの部屋に呼ばれた。沢井とファーザーはワシントンの家に家具を入れること、また、誰が手伝いに行くか、などについて話した。そしてクラークさん夫婦が相談役として、また、アイダ小母さんが家政婦として行くことが決められた。沢井は、今回は特に私を連れてゆかないが、3、4カ月して彼らがもっと落ち着いたら、私に來てもらいたいと言った。私は沢井とヴァインクリフに行き彼とそこに泊まった。私たちが話を始めた時間があまり遅かったからだ。

3月13日（月）

ファーザーは主にミュージデルが原因で大変な苦しみを味わっている、彼女はファーザー宛に、沢山の厄介な事柄について、一日がかりで手紙を書いた。私は医者ののホール先生に來てもらうよう、レストランまで電報をとどけた。そしてダビー小母さんのために、ホテルに一室予約しておいた。ファーザーは「ダビー小母さんはファーザーのことも何もかも忘れないといけない。そしてファーザーがダビー小母さんのために、ミュージデルの「働き（sphere）を処理するから、ホテルに行って眠るように」と言った。森と他の日本人たちはアーサー小父さんに連れられてチャーチル・ファームに出掛けて行った。しかし私は、グレンサイドで大変ストレスを感じたりしたので、行くことができなかった。ダビー小母さんは、ホール先生と一緒に、ミュージデルに会いにヴァインクリフに行った。ミュージデルはホール先生に大変無礼な態度をとったようだが、彼はミュージデルから返事を引き出したようだ。先生の話では、彼女は確実に気が狂っている。そして、精神病院に送るほか方法がない。でなければ、ファーザーとその身近の人たちが、破滅させられるということだ。ファーザーは気分がすぐれず苦しんでいる。そして4時頃床についた。お茶のあとダビー小母さんから上記の件を聞くため、私はホテルにいった。その後、森に会いにヴァインクリフに行き1時半頃迄話していた。そして一晩彼と一緒にいた。ファーザーもダビー小母さんも一日森に会えなかった。

3月14日（火）

私はダビー小母さんをグレンサイドに連れて帰るためにレストランとホテルに行った。ファーザーが森に会いたがったので、私はヴァインクリフに行き、彼をグレンサイドに連れて來た。しかし、森が來た時、ファーザーはあまり苦しみがひどかったので、多くは語らなかった。ダビー小母さんが森と随分話した。彼女と私たちは皆、ホテルに行って夕食

を食べた。私たちはまたグリーンハウス、レストラン、ワイン貯蔵庫にも行った。私はヴァインクリフには行かなかった。そして今夜は彼らはもっと充分休息がとれると思った。しかしこれは私にはなかなかむずかしいことだった。ファーザーは今日明日は行かないことに決めていた。彼がJ・ブラウンと会わなければならず、また説教したり、あれこれ用事があったからだ。しかし月曜には例のことを始めるつもりだ。

3月15日（水）

私は森とナワをグレンサイドに連れて行き、そこからまたレストランに連れて行った。森は頭痛がとてもひどかった。すっかり本降りの雨になり、私は野村と新井を駅へ連れてゆかなかった。コールドウエルの奥さん（Mrs. Coldwell）と子供たちが、今日、12時の汽車でやって来た。ファーザーは気分が前より良くなっていたが、いまもまだ衰弱し、森の出発以前に彼に会うことができない。ダビー小母さんはとても疲れを感じていた。ダビー小母さんによると、ファーザーはファウラーのために難しい戦いの最中だという。また、ダビー小母さんのジェイミーに対する同情は、昨日終わった、ということだ。また小母さんは「自分は人々からいつも距離を置く方法を学ばなければならない」と言っている。

3月16日（木）

ファーザーは「ナワが野村とヴァインクリフに留まるのは良くない」と言っている。そして、「あずまや」で私と一緒に居るべきだ、と言っている。ナワは専ら木を挽く仕事をして時を過ごしている。今日はとてもきつい一日だった。私は野村に会うためにヴァインクリフに行った。彼が私に話すことがあったからだ。ダビー小母さんは私に、日本人達と一緒に暮らすと私はもっと苦勞するだろうが、私にとっては良いことだろう、とファーザーが言っていたと教えてくれた。私が新井にもっと大きな同情心を持つべきだし、彼ができるだけ幸福になれるように私も力をつくさないといけない、とファーザーは考えている。

3月17日（金）

雨。ひどい天気。それでどの仕事もはかどらなかった。私は夕食前少々眠った。新井は丸太小屋の掃除をしていた。また木を挽く仕事などしていた。午後、私は新井をレストラン、ホテル、それからワイン貯蔵庫に連れていった。必要な時に、独力で道を思い出してくれるようにと考えたからだ。

3月18日（土）

私は義理にも元気だなどと言えない感じだった。私は洗濯済みの衣類と肉を取りにバードネストにいった。その後私はレストランとホテルに行き肉をもらい、土をつめた樽を家まで持って帰った。午後私と新井は、礼拝堂を掃除するためヴァインクリフに出掛けた。

ドーラと野村が私を手伝って奇麗にした。私たちはそこで、まだお茶の時間に早かったが
お茶を飲み、暗くなって帰宅した。

3月19日（日）

ファーザーは最高にすばらしい説教をした。彼はマタイ福音書5章を読んだ。沢山の外部の人々が出席していた。私たちは最後まで残れなかったで、そこを出て行った。ダビー小母さんは精力を使い果していたので、睡眠をとるためグレンサイドからヴァインクリフに帰った。私もまたヴァインクリフで寝た。ザッキーとダブリンさん（Mr. Daplyn）が、今夜は一緒に、私たちは素晴らしい（不明）。私たちは図書館で、少ししか（調査 investigation？）できなかった。ビオラ小母さんは私に「これからも気をつけて見ているよ」といった。

3月20日（月）

私は、朝とても早い時間にグレンサイドに戻り、それからヴァインクリフにもう一度帰って来た。ダビー小母さんが、クロス（Cross）の仕事具合を見るためにコテージに行ったからだ。私は酪農場に行って、ボートン（Bauton）をコテージに行かせ、窓とドアとクロスの道具箱を持って行かせた。私が戻ってくると、ダビー小母さんは、バンクステン（Banksten）が全部手に入れたかどうか調べに行っていて欲しいと言った。（不明）彼と一緒にコテージに行き、それから「あずまや」に行った。私は今朝ホール先生宛に、来て下さるよう手紙を書いたが、彼は来なかった。ダビー小母さんが、森に手紙を書いたので、私も二、三行書き足して同封した。

3月21日（火）

昨夜、私は本当に気分が悪くて、遅くなる迄起き上がれなかった。私の大切なゴールデン・ローズ小母さんが、私のことを心配してくれたようだ。私はほとんど一日中家にいた。ところが古い水車小屋で事故が起こった。葦毛のチームが材木を扱っている時のことだった。ルーシー小母さんがダビー小母さんに会いにやって来て「フロレッタ小母さん（Aunt Floretta）とローザ（エマソン）小母さんが2時までにはやって来る。そして次の命令が貰えるまで、そのまま居るつもりだ」と教えてくれた。私はいつもより元気な感じだったが、夜が近づいてくると、だんだん惨めな思いが募ってきはじめて、ずっと早めに床についた。

3月22日（水）

私は体はいつもよりずっと調子がいい感じがした。ファーザーはカスバートさん（Mr. Cuthbert）が昨日来てから、一日中ひどく苦しんでいた。ダビー小母さんとゴールデン・

ローズ小母さんは今日、彼らがここに移ってきてから、こんなにファーザーが苦しんだ姿を見たことはない、と言った。彼らは皆、とても厳しい経験をして、疲れ果てていた。ファーザーは今夜11時頃迄、口述筆記をしていた。私はとてもみじめな気分で、早めに床に就いた。私たちが「あずまや」に居た時、野村が会いに来た。

3月23日（木）

ファーザーはいつもより気分が良かった。ダビー小母さんはフロレッタ小母さんとローザに会いにホテルに行った。私がそこまで小母さんをつれて行った。私は非常に気分が良くなっていたが、咳がこれまで以上に出た。ゴールデン・ローズ小母さんは私に、ファーザーはワシントンについて口述筆記中だ、と教えてくれた。また彼は今、特にワシントンにいる沢井のために、場所を準備中だ、と教えてくれた。

3月24日（金）

ファーザーはまたまた大変苦しんでいる。苦痛のいくがしかは、ダビー小母さんがホテルに行くことによって起こっている。小母さんの話では、ファーザーは多分フロレッタ小母さんとローザをワシントンに行かせて、沢井といっしょに住ませる考えだという。ダビー小母さんは私に、ウッドバイン小父さんが昨日手紙をよこして、まだダビー小母さんの手紙を受け取っていないこと、またイギリスの最高の（外交官？）オド・ラッセル（Odo Russel）のこと、など言って来たと教えてくれた。ダビー小母さんは私に、ファーザーは沢井のために随分力をつくして働き、ワシントンに居る大統領について、最高に素晴らしいものを書いている、などと教えてくれた。彼女の言うところでは、文体といい内容といい、現代の聖書ともいえるべきものだ、とのことだ。ファーザーは長い間欲しいと思っていたながら、まだ待った方がよいと感じていた、（アイルランド人の）バリッシュさん（Mr. Barish）の農地を買った。

3月25日（土）

今日は天気がとても良く、日も照っている。ファーザーは酪農場に行き、ダビー小母さんは彼のために馬を連れていった。私は七面鳥を殺した。ダビー小母さんは、新しく買った家に住むことを話している。食後ファーザーとダビー小母さんはその家に行った。私はバードネストとロッジとヴァインクリフに行った。夜になると咳がひどくなるので、今夜はホール先生の診察を受けるため、ウエストフィールドに行った。私は8時前に戻った。

3月26日（日）

輝かしい朝日がさんさんと照り輝き、さわやかだ。美しい安息日を知らせるためか、私の心には繰り返し繰り返し美しい楽の音が聞こえる。私と新井は早朝徒歩で出掛け、ゴー

ルデン・ローズ小母さんとダビー小母さんは小型の馬車で、ファーザーは一人歩いてやって来た。外部から説教を聴きにくる人が前の日曜日より一杯いる。説教は素晴らしかった。話の要点は次のとおりだ。純心な赤子や子供たちの将来の観点から見た「いわゆるキリスト教」の虚偽。信頼の不足とポートランド（Portland）の（不明）。罪人や悪漢に対する彼の大きな同情と愛。このような人々と言えども、正しい感化がおよべば、聖者、有徳の士となるであろう。撒水による洗礼が回心をもたらすという大きな嘘。彼によれば、人がもし自我を脱却し、他者の幸福のために働く生活をしていれば、たとえその人物が神の存在を信じていようといまいと（同じことで？）、またファーザーと全く反対の立場から事物を見ていようと、その人は彼の真の兄弟だというのであった。子供を、かくかくしかじかの偉大な人物に似るよう育てようとか、（不明）自分の性質と似るよう育てるとか、希望することは大きな間違いだ、などなど。

3月27日（月）

リードさん（Mr. Reid）が昼の汽車で着いた。ダビー小母さんは今朝、ホール先生に会いにウエストフィールドに出掛けた。ミュージデルの状況がファーザーを傷つけるので、彼女を精神病院に入れるためである。それで、小母さんはリードさんが来たのと同じ汽車で帰ってきた。リードさんは沢井のことなどについて沢山のことを私たちに教えてくれた。ダビー小母さんはリードさんにフランスのことを教え、そこでの内戦のことについて次のような話をした。ある晩、パリでファーザーはナポレオンの「働き」（Napoleonic sphere）と激しく衝突し、主はファーザーに勝利を与えられた。ファーザーの言葉によるとその時ナポレオンの「働き」は打ち破られ、以後彼の力は衰退するだろうとの事だった。ファーザーとダビー小母さんは、ミュージデルに出て行くよう話すために、ヴァインクリフに行った。彼らはとても興味のある時を過ごしたが、ファーザーは彼女を出て行かせないことに決めた。それは、彼女がとても従順で、何ごとにつけ進んで行く心構えであるから、追い出すのは正しくない、とファーザーが感じたためだ。私たちはウッドバイン小父さんが帰途にあると聞かされた。

3月28日（火）

リードさんが8時頃ここへやって来た。ゴールデン・ローズ小母さんの着替えがまだだったので、私がお相手をした。私は今朝手紙を何通か受け取った。一つは沢井から公文書の形で一通、もう一つは杉浦からのもので、最近もらった368ドル18セントの小切手のことが書かれており、森からの何通かの手紙が同封してあった。カズン・グレイス（Cousin Grace）が今朝、ダビー小母さんに、温室のことを話しにやって来た。リードさんは12時に帰って行った。ダビー小母さんは、彼にファーザーが言ったこと、つまり、日本人がどれほど（うぬぼれが強い？）かなど、語ってきかせた。彼女は「書簡編集者」リーント

(Leant)宛の手紙と、ボストンのケンブリッジ(Cambridge)にいる Nile (仁礼?)宛に送られてきた手紙を読んだ。ファーザーはひどくなったり和らいだりはするが、一日中苦しんでいた。彼は私に、夜外出して外気に触れてはいけない、またもっと良くなるまで、今夜からここで眠らないといけないと言った。野村が会いにやって来た。私は彼に私の金銭問題などについて沢井に手紙を書いてくれと頼んだ。この件について私が自分で書くことができなかったからだ。ファーザーは、10時半頃床についた。私の大切なゴールデン・ローズ小母さんが、私をベッドに寝かせてくれた。そして布を濡らして私の胸にのせてくれたので、とても気分が良くなった。

3月29日(水)

私は一晩中、ひどく咳が出た。私はみじめな気分になり憔悴してしまった。私は何もあまり手につかなかった。ダビー小母さんは沢井とニムラ(Nimura)(野村の誤りか?)に手紙を一通書いた。私もまた手紙を書いた。私は一日中事がどう運んでいるのか、ほとんどわからなかった。気分がひどく悪くて、午後はずっと眠っていたからである。ファーザーとダビー小母さんは、バリー爺いさん(Old Barry)のところに行ったのだと思う。ゴールデン・ローズ小母さんは、一日中私の看病をしてくれて、一時間おきに薬をくれた。

3月30日(木)

ダビー小母さんは今朝バッファローに行った。買い物があつたのと、歯の具合が悪かったからだ。フォスターさんが今朝厳しい顔付きでやってきて、ゴールデン・ローズ小母さんに会いたいと言った。ゴールデン・ローズ小母さんは、「ジェイムズ・ファウラーが自殺したのだ」と教えてくれた。ファーザーはカズン・グレイスに手紙を書き、遺体を収容するため、ベッシー小母さんといっしょにウエストフィールドに行くようにと言った。ファーザーはアンダーヒルさん(Mr. Underhill)を迎えに駅に行った。彼は帰ってくると、昨晚州刑務所から囚人が一人逃げ出し、その捜索中にファウラーさんの死体にぶつかったのだと、教えてくれた。死体はウエストフィールドに運ばれ、医師がフォスターさんに電報をうったのだ。彼が最後に人に会ったのは、昨日の12時だった。今朝ゴールデン・ローズ小母さんは「兄弟たちには、フォスターさんが肉体の拘束から完全に自由ではなく、肉体に戻ろうと望み、努力しているというのがわかっていた」と言った。ファーザーは昨夜とても悲嘆にくれていた。兄弟たちが彼に口をきかなかったからだ。彼は、彼らがファウラーさんの行状にかかわりがあると想像した。ファーザーの言葉によればテディ・リーカ小父さん(Uncle Teddy Requa)と二人の天使がくだってきて、彼の肉体から靈魂を解き放った。テディ小父さんは「働き」を整えようと、ヴァインクリフの礼拝堂にいった。ファーザーはファウラーさんの遺体を安置するために行き、遺体は礼拝堂に運びこまれた。ファーザーは7時の汽車でやってくるダビー小母さんを迎えに駅に行った。兄弟たちは今

夜沢山話をした。バリーさんの荷物は、一人一組のチームと二人一組のチームの共同作業の手伝いで、一日のうちにみるみる片付いていった。バリーさんと彼の奥さんは、ファーザーに別れの挨拶にやって来た。ファーザーはとても丁寧に対応した。ファーザーは今夜、バリーさんの所にいて、そこから土を持ってきた。私は一日中、これまでに較べ気分がずっとよく、ほとんど咳も出なかった。

3月31日（金）

ダビー小母さんはとても忙しそうだ。新しく買った家を奇麗にするのにかかりきっていた。サムがその庭を（不明）していた。ゴールデン・ローズ小母さんは、疲れているようだった。ファーザーはお葬式に行くつもりだったが、無意味だと考え、その上、神経痛が痛むので、行くのをやめ、バックナーさん（Mr. Buckner）が、そこで説教することになった。それで、私達ここにいる者は、誰一人葬儀には行かなかった。ガラハーさんは、別な仕事を監督するよう命令を受け取っているようだった。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんと新井とアイダー（Eider）は、バリーの土地に行った。ファーザーは自分の部屋に居た。私はほとんどずっと『若草物語』（Little Women）を読んで暮らした。この本は昨日読み始めたのだ。ファーザーはとても悲しそうで、憂鬱そうに見えた。しかし彼は夕方口述筆記を始めた。